がんばろう！つばさネットワーク　活動の記録(資料)

「がんばろう！つばさネットワーク」発会式(20110422)と気仙沼現地ボランティア(20110502-05)

１－１　１－２　１－３

気仙沼高校から生徒 11 名、教員 2 名を大阪に招待（20110803-05）

２－１　２－２　２－３

気仙沼現地ボランティア（第２回）（20111222-26）

３－１　３－２　３－３

宮城県 村井善浩知事、避難されていた女性からの御礼状と大阪府「こころの再生」府民運動の表彰状

４－１

気仙沼現地ボランティア（第３回）（20120502-06）

５－１　５－２　５－３

気仙沼高校から生徒４０名、教員４名を大阪に招待（20120810-12）

６－１　６－２　６－３

2012 年９月８日　がんばろう!つばさネットワーク

「がんばろう！つばさネットワーク」発会式(20110422)と気仙沼現地ボランティア(20110502-05)

2011 年 3 月 11 日東日本大震災発生　未曽有の大災害。大阪にいる私たちにも、「何かせなアカン」　その気持ちで始まったこの活動。

がんばろう！つばさネットワーク発会　2011 年 4 月 22 日(金)

ボランティアを募集し、活動がスタート。

5 月 2 日午後 8 時 出発前の荷物搬入

気仙沼市街地の様子（5 月 2 日）

津波は川を遡上してきた

募金の取り組みは、新聞でも報じられました。

GWは被災地支援

「何かせなアカン」

北摂つばさ高生ら気仙沼へ

毎日新聞(大阪)
2011.04.26

正面の家は流されてきた後、今の位置に

階上（はしがみ）中学校避難所で本部長の話を伺う

天国の子供たちに見てもらうため、鯉のぼりを上げる

大阪の高校生、気仙沼へ。
かけがえのない「何か」を掴んだ4日間
「がんばろう！つばさネットワーク」

できたての「たこ焼き」を避難所の皆さんに

被災地の高校生とも交流

「がんばろう！つばさネットワーク」発会式(20110422)と気仙沼現地ボランティア(20110502-05)

流れてきた遺留品の

公園２カ所の表面を覆うヘドロを取り除く作業をしました（５月４日）

取り除いた土は土のうとして再利用します

新月（にいつき）中学校避難所でのタコ焼き

堤防沿いに流れ着いた家の残骸です。家が川に沈んでいます。

堤防沿いを歩くと車の残骸が。

小学校の校庭は、家の残骸だらけです

宿泊した早稲谷鹿踊り伝承館にて

大阪府立北摂つばさ高校（茨木市）では、生徒や教師、保護者、地域住民らが4月下旬にNPO団体「がんばろう！つばさネットワーク」をつくり、被災地でのボランティア活動などを行っています。

先月初めには、ゴールデンウイークを利用して、生徒29人を含む約40人が4日間の日程で宮城県気仙沼市を訪れました。同高3年、豊田龍之介さん(17)＝写真＝は生徒たちのまとめ役を務めました。

市街地の広範囲が水没した同市では、あちこちに漁船が転がり、街は廃墟のようだったといいます。生徒らは掃除を手伝おうと、避難所に行きました。豊田さんは「被災者が寝起きする場所に立ち入ってもいいのだろうか」と戸惑いましたが、70歳くらいの女性に「遠くからよく来てくれた」と感謝され、「自分たちにできることをしよう」と思い直したそうです。

泥に覆われた公園では、地元の住民と一緒に重油を含んだヘドロを土のう袋に詰めました。3時間も作業すると、腰や肩が痛くなりましたが、ヘドロはきれいに取り除けました。

気仙沼高校も訪ねました。学校はまだ再開していなかった時期で、部活動中の生徒約20人と菓子を食べながらおしゃべりをしました。「家を流され、何もかもなくなってしまった」と話す生徒もいました。豊田さんは「普通に生活できるのが、どれほど幸せなことか気づいた」と言います。

同ネットワークは8月初めに同高の生徒約10人を招き、茨木市内でホームステイしてもらう予定です。「大阪の街で心から笑ってもらえるような企画を考えたい」。豊田さんは再会を心待ちにしています。

支援だより

大阪府立北摂つばさ高３年

豊田龍之介さん

「できること」を懸命に

被災高校生と交流も

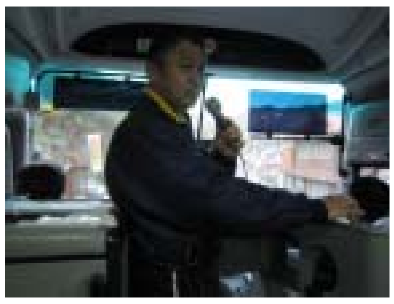
宮城県気仙沼市の公園でヘドロを取り除く豊田さん（左）（５月４日、府立北摂つばさ高校提供）

20110610 読売新聞（大阪）

基礎だけの土台と、流れ着いてきた家

「がんばろう！つばさネットワーク」発会式(20110422)と気仙沼現地ボランティア(20110502-05)

気仙沼局と気仙沼高校との交流



気仙沼高校の佐藤先生

つばさネットワークから気仙沼高校に
義捐金をお渡ししています。

東日本大震災ボランティア報告

解放新聞（大阪版）2011.06.06

生徒29人・教員6人が気仙沼で支援活動

大阪府立北摂つばさ高校

北摂つばさ高校の生徒29人、教員6人が宮城県気仙沼市で5月2日～5日まで現地ボランティアを行った。

北摂つばさ高校は茨木市で2007年度にスタートした新設の普通科総合高校です。人権と規律をコンセプトに2回目の卒業生を送り出し、草創期の4年間を終えようとしていた2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。3月15日の終業式の日、生徒たちは「何か、せなあかん」「どうなるんやろ」と話し合っていました。

4月に入ってF教諭が在籍する、大阪市立大学大学院での先輩である坂口一美さん（国内ユネスコ委員）が宮城県気仙沼で支援活動をされていることを知り、4月22日に教員と元PTA会長、NPOはっちぽっち理事長、NPO素材技検隊理事長で、「がんばろう！つばさネットワーク」という任意団体を結成しました。並行して募集した現地ボランティアは18～20日の3日間で生徒29人、教員6人など合計40人を越えました。

阪急茨木市駅で4月24日と5月2日に募金活動を実施し、市民の方から「現地に行くのか」「頑張ってね」「御苦労様」といった励ましの言葉を頂きました。

現地ボランティアは5月2日に駅前での募金を終えて20時に学校を出発し、5月3日14時前に気仙沼市内に到着しました。

初めての支援活動は、避難所となっている階上（はしかみ）中学校で手作りの「鯉のぼり」をあげることでした。鯉のぼりには「負けないぞ」「応援しています」「夫の魂とともに、天高く上がれ」などメッセージが書かれていました。生徒は、「自分に何が出来るのか」「被災された方にどのように接したらよいのか」といった不安をもっていましたし、「被災地が怖い」とのべる生徒もいました。しかし、避難所で明るく前向きに頑張る現地の方と出会い、現状をお聞きする機会を得ました。「来てくれるだけで嬉しい。ありがとう」と涙ながらに生徒一人ひとりと握手してくださる高齢の女性と出会い、生徒は「自分の出来ることを頑張ろう」という心境になったと言っていました。

次に、新月（にいつき）中学校で避難所の清掃とたこ焼き作りを行いました。生徒は初めて避難所の中に入り静けさに驚いていましたが、たこ焼きを被災された方にふるまうことがコミュニケーションのきっかけとなり、緊張もほぐれていったようです。

翌5月4日は、2ヶ所の公園の清掃作業、被災状況の見学、気仙沼高校生との交流、重要無形文化財の見学でした。9時から14時までクワやスコップで市内2ヶ所の公園を覆っているヘドロの除去作業を行いました。公園は、水産加工品の腐敗とヘドロ、油の混ざり合った何とも言い難い臭いを放っていました。黒いヘドロを除去すると黄土色の土が顔を出します。同時に写真・プリクラ・年賀状・布・CD・日用品・魚などが見つかりました。ここでも現地の方の優しさに触れる機会がありました。清掃活動中、近所のマンションから活動を見ていたという方が沢山のお菓子を差し入れてくださいました。

次に、川沿いの被災状況を見学しました。流された家が川の中に取り残されている風景、木材や家具や何もかもがズタズタに転がっている風景、家の基礎だけが残っている風景、車が横転している風景、小学校が廃墟となっている風景。水産加工場の発泡スチロールが流れ、魚が腐っている風景。現場の悲惨さに、生徒からはため息がきかれ、途中降り出した雨にも騒がず、静かに現場を目に焼き付けていました。

続いて気仙沼高校生との交流を行いました。気仙沼高校は、生徒の4割が自宅をなくし、電車が不通という状況から、校内の避難所で生活する生徒もおり新学期も始まっていませんでした。両校の高校生が4～6人で1グループとなり、話をしたり、テニスをしたり、一発芸を披露したり。1時間程度の交流でした。ある生徒は、「地震の時の話もしてくれた。被災地に友達が出来たのだから大阪に帰ってからのこれからの行動も変わってくると思う」とのべていました。

バスで宿泊施設に戻る際、気仙沼高校の先生に、船が陸地に乗り上げている港を巡り被害状況など説明していただきました。「気仙沼は海の恵みで生活してきた街なので、津波があったからといって、海を恨む人は誰もいません。絶対に復興してみせます」と力強く話され、その言葉は生徒の心に響くものでした。

宿舎では現地の方に重要無形文化財である「早稲谷鹿踊」を披露していただきました。帰阪後「家があって、ご飯が食べられることは幸せなんやなって思う」と振り返る生徒もいました。生徒一人ひとりのこれからの人生において、今回の経験がいきることを願っています。最後に、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地元高校生と交流を深めた

つばさ高校の皆さん
私吉田くに子です
五月三日遠い所より鯉のぼり大勢で
持って来てくれました。
私達十月一日に仮設に移りました避難所
にいる時は一日何回となく鯉のぼりを見
勇気と元気をもらい頑張りました。
皆さんや先生方や大人の方々に感謝の気
持でいっぱいです ありがとうございました。
高校の皆さんお元気で良い社会人になって下さい
最後に成りましたがつばさ高校の発展をお祈り

大阪府茨木市玉島台
二ー十五
大阪府立北摂
つばさ高等学校
[redacted]
吉田くに子

大阪に帰ってきたところ（5月6日）

気仙沼高校から生徒 11 名、教員 2 名を大阪に招待（20110803-05）

気仙沼高校の生徒さん 11 名、先生 2 名を大阪にお招きしました。

「がんばろう！つばさネットワーク」の主催により実施した 2011 年 5 月の気仙沼での被災地支援活動で交流した、気仙沼高校の生徒さん 11 名、先生 2 名を 8 月 3～5 日に大阪に招待し交流しました。ホスト家族は玉島地区、水尾地区の連合自治会にお願いしました。

交流の経費をねん出するために、2 年「アジアの文化」、3 年「時事問題」の受講生 130 名が分担して 7 月 13.15.21.22 日に阪急茨木駅前で街頭募金をしました。参加した多くの生徒には初めての体験でしたが、通り過ぎる人に「落ち込み」ながらも、募金してくれる人に「うれしくて涙が出そうになった」、と総じて「貴重な体験だった」と言ってくれています。ホストの松野代表(元 PTA 会長)と生徒ホストの 3 年生、豊田龍之介さん、松島香歩さん、福岡拓真さん、事務局として土居先生が気仙沼からの一行に同行しました。

阪急茨木市駅前の街頭募金

20110803 毎日新聞 朝刊

毎日新

粉モンの縁

気仙沼高生、きょう招待

茨木の高校生ボランティア

[illegible]

藤井伸二教諭（左）の指導で、宮城県立気仙沼高校の生徒の受け入れについて話し合う大阪府立北摂つばさ高校の生徒たち＝大阪府茨木市の北摂つばさ高で

気温が高く、街頭募金は日陰でやりました。

連日２５人ぐらいが募金活動をしました。3年「時事問題」９４人、2年「アジアの文化」３４人の受講生が中心に取り組みました。

8 月 3 日（1 日目）：ホストの 5 名は箕面でゲスト 13 名をお迎えして、まず共に温泉につかりました。その後、大阪市内へ移動し、通天閣の見学。新世界で串カツを食べた後、北摂つばさ高校に移動、歓迎セレモニーや生徒会、ダンス部、フォークソング部によるアトラクションでもてなしました。また、全校生徒で折った千羽鶴をプレゼントしました。宿泊先である玉島・水尾地区のホスト家族宅への送迎は「アジアの文化」「時事問題」の 130 名が 3 日間を分担して担当してくれました。

8 月 4 日（2 日目）：朝の 7 時 30 分に送迎担当の生徒が分担して迎えに行き、8 時に北摂つばさ高校生にゲスト、ホストが集合しました。バスで大阪城の見学、大阪駅前第二ビルの大阪市立大学の文化交流センターへ移動し、関西の進学情報の説明を受けました。茨木市へ移動し、被災地支援活動報告会へ参加しました。北摂つばさ高校の生徒の発表と気仙沼高校の生徒、先生の発表に会場を埋め尽くした 130 人の参加者は聞き入っていました。(詳細は「がんばろう！つばさネットワーク」の HP をご覧ください)

8 月 5 日（3 日目）：朝の 6 時 30 分から送迎リーダーがホスト宅を回って荷物を回収、7 時 30 分までに送迎担当の生徒が迎えに行き、8 時にはゲスト、ホスト生徒が北摂つばさ高校に集合しました。生徒どうし名残惜しく、なかなか出発できず、出発したのは 9 時になりました。奈良に移動、法隆寺を見学し、健康ランドに移動。健康ランドで入浴・夕食などの休息をとった後、20 時過ぎに奈良を出発し、気仙沼へ戻りました。

新世界で串カツ昼食

2011年(平成23年)7月24日(日曜日)

気仙沼の生徒を招待

北摂つばさ高が街頭募金

東日本大震災の被災地・宮城県気仙沼市でボランティアをするなどの支援活動に取り組んでいる府立北摂つばさ高校（茨木市）の生徒らが、交流のある気仙沼高の生徒を8月3～5日に大阪に招待するため、街頭募金活動を行っている。同4日午後2時からは、茨木市福祉文化会館で活動報告会を開き、両校の生徒が被災地で感じたことを話す。

北摂つばさ高は、地域住民とともに被災地を支援するNPOを設立し、5月、生徒29人を現地に派遣、公園の泥かきなどに取り組んだ。この際に知り合った気仙沼高には、親元を離れて校内で避難生活を送る生徒もおり、同校生徒の招待を計画。交通費などをまかなうため、今月だけで4回の街頭募金を行ってきた。

22日に阪急茨木市駅前で行った街頭募金には19人が参加。「がんばろう東北」などと書かれた横断幕を掲げ、「募金お願いします」と呼びかけた＝写真＝。活動報告会の問い合わせは茨木市市民活動センター（072・623・8820）へ。

つばさ高校の生徒１３０人が連日の送迎を分担して取り組みました。

生徒どうしの交流会は楽しいひと時でした。

3 日間を通して、高校生同士が交流を図ることで、被災地の復興に少しでも貢献できたのではないか、と思われます。まず、気仙沼で被災した高校生が「家」でくつろぐことで気分転換し、また被災した高校生が自分の体験を話すことで少しでも癒せてもらえたのではないか、と考えます。

津波で自宅が流され、今も高校近くの中学校で生活していると話してくれた気仙沼高校の男子生徒は、避難所に暮らしていますが、学校生活は平常通りに戻っており、生活の立て直しを図ろうとしているところだと言います。大阪に来て、久しぶりに「家」で寝ることになり「ホスト家族に小学生の３兄弟がいて、ワンパクで相手をするのが大変だったけど、すごく楽しかった」と笑顔で話してくれていました。

新世界 元気のおすそ分け

気仙沼高、大阪の高校生と交流

東日本大震災で身内を亡くすなど、大きな被害を受けた宮城県立気仙沼高校（気仙沼市）の生徒11人が3日、大阪府立北摂つばさ高（大阪府茨木市）の招きで大阪を訪れ、新世界を観光した。

大阪・新世界を観光する宮城県立気仙沼高校の生徒ら（大阪市浪速区で）

つばさ高の生徒や地域住民がNPO「がんばろう！つばさネットワーク」を作って5月に現地でボランティアを行い、交流した縁で、「大阪でリフレッシュして」と招待した。滞在費などはつばさ高生らの街頭募金や寄付金などで賄い、被災生徒らは5日まで茨木市内にホームステイする。

早朝にバスで到着した気仙沼高の生徒は、つばさ高生と一緒に新世界を散策。通天閣の展望台で幸運の神様「ビリケンさん」と記念撮影するなど大阪らしさを満喫。その後つばさ高に移動して交流会を開いた。

気仙沼高3年の阿部菜穂さん(18)は先月、津波にさらわれ、遺体がまだ見つからない母(55)の葬儀を終えたばかり。「つらい現実から少し離れて、心から楽しみたい」と大阪土産を買った。避難生活中の3年、藤倉祥央（わおう）さん(17)は、うわさには聞いていたという「ソース2度づけ禁止」の作法を教わって串カツをほおばり、「大阪の街から元気を分けてもらった。心遣いに感謝しています」と話した。

20110804朝刊 読売新聞（大阪本社）

8 月 5 日の朝のお別れの様子です

つばさ高校周辺マップ

大きな長方形が真砂町会、右の正方形が玉島町会です。ホストファミリーを担当してくださいました。

気仙沼高校から生徒 11 名、教員 2 名を大阪に招待（20110803-05）

気仙沼高校の女子生徒も「大阪に来て本当に良かった！」と話してくれました。「昨年の修学旅行で法隆寺に来た時、おみくじに『生死をさまようことになる』って書いてあって『何、これ？』と思ったら、震災で本当に生死をさまようことになった。3 月 11 日、お母さんとラーメン屋さんでラーメンを食べているときに地震が起こって、車で中学校に向かいました。『間に合ったね』って話していたら、びっくりするくらいの津波が来て、逃げたはずの中学校の 1 階が水没して、私もお母さんも流された。お母さんと手をつないでいたけど、離れちゃって。私は、偶然車と木材に挟まれて浮かび上がった所を、そこにいた中学生が数人で助けてくれました。お母さんは、そのまま見つかっていません。お父さんは、救命救急士でその日は仕事に出ていたんです。父は私と病院で会ったときには大号泣していました。それから私はお父さんの職場で他府県から応援にきてくれている消防隊の方にお茶を出したり手伝いをしながら過ごしていました。今は、父のいる、おばあちゃんの家からだと高校に通えないから、私は１人暮らしをしています。これからは受験があるのが大変かな。将来は、救急救命士になりたいと思ってます。震災の経験も話していかないといけないと思っています。本当は高校の友達にこの震災の話をしたくても、友達も同じ経験をしているから『思い出すからやめて』って言われることもあって、話せないこともあるんです。つばさの子は『そうなんやぁ。大変やったんやなぁ』って聞いてくれて、『家』ではホスト家族のおばあちゃんが『大変だったね』って大泣きしてくれたんです。聞いてもらえて嬉しかったです。」と話してくれました。

33 大阪 大市内 14版 2011年(平成23年)8月6日 土曜日

宮城・気仙沼から茨木へ

高校生ら真心交流

震災支援が縁で招く

茨木市の府立北摂つばさ高校の生徒らが5月に宮城県気仙沼市で東日本大震災の支援活動をしたのを縁に、2～6日の日程で同県立気仙沼高校の生徒11人を大阪に招いた。生徒たちは茨木市にホームステイするなどしながら北摂つばさの生徒らと交流を深めた。

北摂つばさ高は4月、生徒と保護者、教員らで支援団体を結成。5月2～5日、生徒29人を含む約40人が気仙沼市に入った。公園で泥かきをしたり避難所でたこ焼きを振る舞ったりし、4日には気仙沼高を訪れた。「気仙沼高の生徒たちに少しでも休息の時間を持ってもらいたい」と北摂つばさ高側が大阪への招待を企画。街頭募金などで旅費を集め、付近の住民からホストファミリーを募った。

ホストファミリーの森拓哉さん(36)方にホームステイした1年生の阪中優衣さん(15)は新世界で串カツの2度づけ禁止に驚くなど初の大阪観光を楽しんだ。だが本当の目的は「ボランティアに来てくれたつばさ高校の人たちに会ってお礼が言いたかった」からだったという。2年生の小野寺晃希君(17)は「大阪の人から元気をもらえた気がする。来て良かった」と話した。（石田貴子）

大阪 市内

大阪本社 社会グループ

2011 0806 朝日新聞 大阪市内

大阪府教育長　表敬訪問（20110711）

茨木市でホームステイした気仙沼高校の生徒による寄せ書き 20110805

自分の経験した事をしっかり話すこと、まわりが共感することで、この生徒さんにとっては今回の大阪滞在が癒しに繋がったようでした。直接、話を聞くことが出来たつばさの生徒には、復興に向けて自分に何が出来るのかを再度考える機会、また、もてなしの気持ちをもって人に関わる機会を得たことを挙げられると考えます。宮城県の気仙沼高校と、大阪府の北摂つばさ高校。縁があり、繋がりを持つことが出来ました。今後も私たちにできる支援活動に取り組んでいきたいと考えています。ご協力をいただいた全ての皆様、ありがとうございました。

(文責：がんばろう！つばさネットワーク事務局)

気仙沼高校の庄子英利校長先生から感謝のお手紙をいただきました。

残暑の候　皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また，日ごろより本校の教育活動に対し，格別なるご支援，ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成２３年３月１１日午後２時４６分，マグニチュード９.０，最大震度７という世界最大級の大地震が発生，さらに直後に発生した最大30mを超える高さの巨大津波により私たちのふるさと気仙沼は，広範囲に壊滅的な被害を受けました。

震災後まもなく日本全国のみならず世界中の皆様方から真心に溢れた多くの暖かいご支援をいただきました。本当にありがとうございました。皆様からいただいた支援物資は，震災による物不足の状況において大変ありがたい贈り物であり，教育活動の再開に大いに役立たせていただきました。また，震災による被害で心を痛めた生徒も大勢いる中，生徒との交流による励ましをいただき，心身共にたくさんのエネルギーと元気を得ることができました。そして何より，本校柔道場で避難所生活をしていた生徒に対して暖かいご援助をたくさんいただき，心の支えとなりました。本当にありがとうございました。

さて，あれからおよそ５ヶ月が経過しました。仮設住宅の建設の目処は立ちましたが，県や市町村レベルの復興計画が決定していないために経済基盤の復旧はあまり進まず，雇用問題もなかなか改善しておりません。

しかし，そのような中においても，ふるさとを復活させようとする市民レベルの活動は着実に拡大しております。本校生徒も，自ら立ち上がり，部活動やボランティア活動として，地域の住民とともに，避難所でのコンサート活動等や地域の夏祭りへの参加，路側帯への草花の植栽などに積極的に取り組んでいます。ふるさとの街も，以前の活気とは比べようもありませんが，少しずつ賑わいがでてきました。一人一人の生徒の心に，被災した私たちが率先して，このふるさとの復旧・復興の力になりたいという気持ちが芽生え，次第に大きくなってきたように感じられます。

また，この大震災で体験したことを多くの方々に語り継いでいくとともに，皆様方からいただいた物心両面でのご支援を忘れず，必ずご恩返しをすることが私たちの責務と考えております。

最後になりましたが，皆様方の今後のご健勝・ご発展を祈念申し上げ，御礼のご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

平成２３年８月２３日

宮城県気仙沼高等学校　校長　庄子英利

気仙沼現地ボランティア（第２回）（20111222-26）

がんばろう!つばさネットワークの主催で年越しのお手伝いに被災地に行きました。北摂つばさ９名など１６名の高校生を含む３０名が参加しました。現地では手つかずの被災地での復旧支援活動、高齢者の施設でのクリスマス、気仙沼高校での交流を計画しています。１２月１４．１５．１９．２０．２２日には阪急茨木市駅前で募金活動を実施しました。写真は１３０名が分担して実施した募金活動の様子です(2011.12.14)。

１２月の期末テストの後、「時事問題」３年９４人、「アジアの文化」２年３４人が中心となって募金に取り組みました。
１０℃以下の街頭は、茨木市民の皆さんの「がんばってね」の励ましの声が暖かかったです。

気仙沼を支援へ
募金活動
茨木市駅前
北摂つばさ高生

東日本大震災の被災地、宮城県気仙沼市に義援金を送るため、府立北摂つばさ高校（茨木市）の生徒が20日、阪急茨木市駅前で募金活動をした。22～26日には気仙沼でボランティア活動をする予定。

1～3年生17人が参加。買い物客らに募金を呼びかけた。同校は5月にも気仙沼を訪れ、たこ焼きをふるまうなどのボランティアを実施。8月には県立気仙沼高校生を大阪に招き、交流を続けている。

今回は、気仙沼市内の高齢者施設などで大掃除など年越しの準備を手伝う予定。22日の出発前にも同駅前で募金活動をするという。

北摂つばさ高2年の丸子健太郎さん(17)は「ボランティアをすることで、一人でも多くの被災者に笑顔になってほしい」と話している。【田中博子】

募金を呼びかける府立北摂つばさ高校の生徒たち
＝茨木市の阪急茨木市駅前で

2011.12.21.
毎日新聞
（朝刊.大阪）

南三陸町の視察をしました。

住宅地や企業の土台や基礎だけになっている様子

基礎だけになっている住宅地

フェリーで大島に向かいます

防災無線をしながら津波に流された女性がいた防災拠点ビル

カキの養殖イカダはすべて重油で燃え落ちてしまい、
ガレキが流れてきて作業できない状態になっています

手前のガレキは１日がかりで掘り出したものです。
海一面に養殖イカダが広がっていたそうです。

気仙沼現地ボランティア（第２回）（20111222-26）

巨大な船は取り除きようがありません。

鉄道と砂浜、駐車場と遊園地のすべてが流されました。ホテルの残骸だけが海に見えています。

地盤沈下で海水が染み出て家の再建ができない住宅地

高齢者施設の春圃苑

昼食の介助をしました。

クリスマスのおたのしみ会

気仙沼高校との交流会

気仙沼高校にて（12 月 25 日）

気仙沼高校ダンス部が復興市場オープニングに登場（12 月 25 日）

温かな年越し お手伝い

被災地で北摂つばさ高生ら

東日本大震災の被災者の年越しの手伝いをしようと、茨木市の府立北摂つばさ高校の生徒ら16人が宮城県気仙沼市に滞在している。8月から集めた義援金約16万円を県立気仙沼高校に届け、26日までの日程で、特別養護老人ホームでのクリスマスケーキ作りや仮設店舗のビラ配りなどに取り組む。

北摂つばさ高は4月、生徒と保護者、教員、地域住民らで支援団体を結成。5月22～25日、気仙沼市で絵かきなどのボランティアをした。気仙沼高と交流を続け、これまで約150万円の義援金を渡している。8月には気仙沼高の生徒11人を茨木市に招いた。

駅前で募金を呼びかける高校生たち＝22日、阪急茨木市駅前

今回は北摂つばさ高だけでなく、府立柴島高校（大阪市東淀川区）や府立夢高校（堺市西区）などの生徒も参加。22日は、気仙沼に行くバスが出発するまで約1時間、阪急茨木市駅前で募金を呼びかけた。

活動初日の23日は、がれきの撤去やカキ養殖に使うロープの仕分けなどを手伝った。

北摂つばさ高の藤井和馬君（17）は「石巻市のおばあちゃんは、家がつぶれて体育館で寒い思いをしたと聞いた。被災地の人に少しでも楽になってもらえるよう、お話に耳を傾けたい」と話した。（石田青子）

20111224 朝日新聞（大阪）

クリスマスツリーのポールの高さまで津波が来たそうです。

震災復興ボランティアに参加して

大阪府立北摂つばさ高等学校　三年　豊田龍之介

東日本大震災の復興支援にと、ぼくは「がんばろう！　つばさネットワーク」の気仙沼ボランティアとして五月の連休に気仙沼に行きました。ぼくたち四〇名は二〇一一年五月二日夜八時にバスで学校を出発しました。

三日の午後、気仙沼に着いた時は家の基礎と瓦礫ばかりの光景とても怖かったです。陸上（ほしかみ）中学校避難所に着いて、ぼくたちはメッセージを書いた舟のぼりを名付け、また避難所を待ち主に返すための住所作業を見学させていただきました。

翌日から本格的な復興支援として、ぼくは「がんばろう！　つばさネットワーク」の気仙沼ボランティアとして五月の連休に気仙沼に行きました。ぼくたち四〇名は二〇一一年五月二日夜八時にバスで学校を出発しました。

三日の午後、気仙沼に着いた時は家の基礎と瓦礫ばかりの光景とても怖かったです。陸上（ほしかみ）中学校避難所に着いて、ぼくたちはメッセージを書いた舟のぼりを名付け、また避難所を待ち主に返すための住所作業を見学させていただきました。

気仙沼高校で生徒と交流

新月（にいつき）中学校避難所では活発な子たちが出迎えをしました。ぼくがたこ焼きをもって自慢したら「おいしかった」「ありがとう」と言ってもらい、とても楽しかったです。

四日は公園二か所のヘドロ除去作業をして、その後、被災地を視察しました。あまりの惨状に写真を撮る気になりませんでした。この後、気仙沼高校（気高）で生徒交流をしました。出会った生徒は、みんな元気で楽しかったです。夕食後、気仙沼草加谷鹿（しし）踊りを鑑賞させていただき、感激しました。

報告会でスピーチ

しばらくして、「ネットワーク」が気高生を大阪に招待することになり、ぼくはホスト役を務めることになりました。

八月三日、一行の来阪後、宮国副校長に行きました。基礎を白紙撤去して意気投合しました。この後、行った新世界の串カツ屋で、ぼくは酒を使いながら復興の被害について聞きました。地震の被害は本当に普通の暮らしだったのに、全部ながれてしまったと聞き、地震と津波は本当に怖いと思いました。

学校に着くと、生徒と先生約一〇〇名が校門で気高生一二名、先生三名を迎えました。歓迎会は生徒会役員五人でダンス部、フォークソング部が出演しました。国際貢献エリアの生徒二三〇人が、二日間の活動を分担して行い、気高生をホスト家族に送り届けました。

八月四日には茨木市の震災ボランティア報告会があり、茨木事務所の報告が始まり、ぼくは、気高生ひとり思うがどうか？　被災地域の様子をプラッシュバックするのでは？　と心配しました。つばさ高校の関係になり、先生のスライド、ニュース映像の後、つばさ生の報告が始まりました。一五人の聴衆の前に出ると、ぼくの頭の中は真っ白になりました。しかも気高生の何人かがずっと泣いているのが見えたので、ぼくはその中で「早く終わったらてぇや」と言いたい気持ちでした。時間通って思いつくままに話しました。気高の先生、生徒の挨拶で報告会が終わりました。気高の先生に「ナイススピーチ」と言われ、ぼくは自慢いながらも、とても嬉しかったです。

お別れの日、ぼくは校舎の車窓のために朝七時学校からステイ先を出発しました。雨模様だったのでぼくは気高の女の子に傘をあげました。彼女は傘を広げて「ここにメッセージ書いて」と言ったので、みんなで寄せ書きをしました。出発時刻のバスの窓際に「また絶対、会おうな」と言葉を交わし、ぼくは泣かないよう、やせ我慢していましたが、こんなに寂しく悲しい別れは初めてでした。

『生きてて良かった』

九月に気高から手紙が届きました。つばさ高校さんの気仙沼ボランティアについて知り、こんな過酷な条件でも来てくれたんだと感激しました。自然と大阪という離れた場所にいても、震災について考え、さらに支援したいと思う高校生がいることを改めて実感させられました。また、その中でも同じ高校生という立場の人たちの参加、支援は、心動かされるものがあり、本当うれしく思いました。心から感謝の気持ちで一杯です。

最後に、この大阪ホームステイに参加させていただけて、とても光栄でした。つばさ高校さんとの交流、また、つばさネットワークさんとの出会いは、どんなカウンセリングよりもわたしには効果的で、震災後初めて『生きてて良かった』と思うことができました。

見事、この交流をきっかけに絆切れさせずに、後輩たちになんらかの形で繋いで欲しいと思うと共に、わたしと同じように家族をなくした高校生には、機会があればこのような企画に進んで参加してみてほしいと強く思いました。（Mさん）

ぼくは、機会があれば、見事また気仙沼へ行きたいと思っています。

20111222 高校生活

読売新聞　朝刊　【朝夕刊セット月ぎめ定価3825円（本体価格3738円＋消費税87円）】【夕刊のみ月ぎめ定価525円（本体価格513円＋消費税12円）】

お母さん思って生きる

人物語　ひと　ヒト　被災地から

大阪の同世代から「元気」

大阪から被災地を訪れた人たちに、震災について語る菜穂さん（右）＝11月26日、宮城県気仙沼市で＝竹田津敦史撮影

母・幸さん

「家は流され、母も行方不明です。つらいことばかりだけど、被災地を思ってくれる人たちに出会い、少しずつ元気を取り戻してきました」

11月26日、宮城県気仙沼市内の小学校。県立気仙沼高3年の阿部菜穂さん（18）（南三陸町）は、大阪から訪れた中高生らの演劇グループを迎えた会場で、こうあいさつした。

あの時、母と同じ場所にいながら、自分だけが助かった。一番大切な人を失い、投げやりな気持ちにもなったが、被災地に思いを寄せてくれる人たちとの出会いで、心に開いた穴がだんだんと埋まってきている。

3月11日。母の幸さん（55）と自宅近くの町立戸倉中の校庭に避難すると、盛り上がった海面が迫ってきた。すぐに崖を駆け上がったが、隣の母は崖上の人に手を引かれていた。「あがらいね（上がれない）」。母の叫び声を耳にした直後、菜穂さんは流された。意識を失いかけたところ、近くの斜面に打ち上げられ助かったが、母の姿はなかった。

料理はおいしく、掃除、洗濯も手際がよい。菜穂さんの友達が来ればスポンジケーキを焼いてくれた。消防職員の父、友則さん（58）は「親に甘う、あの子の世話が生きがいの母親だった」。

学校生活、友人、恋愛…。一人っ子の菜穂さんにとって、幸さんは、何でも話せる姉のようだった。「孫ができたら、また子育てするのもいいな」。うれしそうに話す母を見て、「目標は義孝行」と思っていた。

「私が引き上げていれば」と自分を責めた。学校に親をとられた生徒は少なく、母への思いを話せる相手はいない。「通学したい」「助からなければよかった」。ふさぎ込む時期が続いた。

母の葬儀を終えて9日後の8月3日、菜穂さんは、高校の仲間10人、先生2人と、バスで大阪に入った。

大阪府立北摂つばさ高（茨木市）の生徒からの招待だった。5月に気仙沼で泥かきなどのボランティア活動をした後、被災地の高校生を招こうと、街頭募金を重ねたと聞き、「ここにも応援してくれる人がいるんだ」と驚いた。心が少し、ほぐれた気がした。

「私、津波に流されて、お母さんがいなくなったんだ」。観光で通天閣に向かう途中、話してくれた松島香歩さん（17）に打ち明けた。「そうなんや……」。壮絶に受け止めてくれていると感じた。元気を言って笑わせようとする男子生徒の気遣いもうれしかった。

宮城に戻ると、松島さんたちにメールを送った。「抜け殻みたいな生活でした。でも今日、初めて生きてよかった、心から楽しいって思えました。本当に本当にありがとう」

菜穂さんは9月、希望の郷内の大学に合格した。10月末には東京で、被災者の就学などを支援する財団法人が主催し、被災地の高校生10人で東北の将来を考える会合に参加。同じ境遇の仲間と、「震災遺児が思いを共有できる場を作ろう」と語り合った。

新たな出会いを重ねる中、復興への貢献や貧困国でのボランティア活動などで、目標がおぼろげながら見えてきた。震災から9か月余り。「一歩踏み出せたかな」と思えるようになった。

今もふとした時、心の中で、「なほ」と呼ぶ母の声が聞こえる。そんな時、菜穂さんはこう答える。「家族のために生きたお母さんみたいに、私も誰かの役に立てる人になる。だから、見守っていてね」

（佐々木栄）

20111223 読売新聞（大阪本社）

3月19日（月曜日）　読売　新聞　朝刊

「被災後の滞在 心の支え」

気仙沼から 2高校生、感謝の再訪

東日本大震災後の昨年8月、茨木市の府立北摂つばさ高の生徒らの招きで同市内にホームステイした宮城県立気仙沼高3年の阿部菜穂さん（18）と佐藤裕里加さん（18）が、4月から大学生になるのを前に大阪を再訪。18日、つばさ高生やホストファミリーらと再会し、「元気づけてもらったおかげ」と感謝の気持ちを伝えた。

阿部さんは津波で母親にのまれた後、奇跡的に生還しただ、母・幸さん（当時55歳）はまだ行方がわからない。佐藤さんは震災で通学路が遮断され、2か月間、高校内の避難所で暮らした。こうした現状を知ったつばさ高生と地元自治会の有志がカンパを募り、気仙沼高生を招待。3日間ホームステイしてもらい、観光地を案内した。

2人はこの日、茨木市内で開かれた交流会に参加。東京都内の大学に進む阿部さんは「震災の後でつらかった時、皆さんの温かい気持ちが支えになった」と話し、宮城県内の大学に合格した佐藤さんは「これからもずっと、大阪の人たちとつながっていたい」と言葉を詰まらせた。

阿部さんがステイした上田嘉夫さん（66）は「大阪のお父さんとして、ずっと見守っているよと言葉をかけ、佐藤さんを受け入れた上野伊佐雄さん（66）は「大変な中、受験を乗り切って、一回り大きくなったね」とねぎらった。つばさ高3年の福岡拓真さん（18）は「元気な2人にまた会えてよかった。これからも被災地のことを忘れず、大阪からできる支援を考えたい」と話した。

ホストファミリーらとの再会を喜ぶ佐藤さん（前列左から3人目）と阿部さん（同4人目）＝茨木市内で

20120319 読売新聞（大阪本社）

2012年も気仙沼への支援と交流を　～2011年を振り返って～

20110311東日本大震災をうけて、支援活動をしようと元PTA会長・教員・地域のNPOで「がんばろう！つばさネットワーク」を結成しました。きっかけは3月15日の終業式の日に生徒が「私らも何か、せなアカンのと違うん？」と教員に言ってきたことです。何ができるか考えつつ、日が過ぎていきました。たまたま、4月9日に私が在籍する大阪市立大学大学院の同級生から同大学院の震災ボランティアの会議に誘われて出席したところ、気仙沼出身の坂口一美さんに高校生でもできることがある、と言われました。

前任校で国際交流のボランティア活動からNPOを設立した経験がありましたので、その経験を生かして、一方で元PTAの松野雅一さん、学校に関わるNPOの田中正之さん、村井康利さんに、他方、山﨑睦也校長、同僚の先生方に相談して、20110422に会を発足するとともに、5月の現地ボランティアを実行しました。さらに学校内外での震災復興への活動を喚起することを考え、ホスト家族の募集で玉島地区の長田佳久会長、水尾地区の上田嘉夫防災対策委員長の協力を得て8月の高校生の招待を実行しました。さらに、気仙沼高校の3年生が卒業する前にもう一度交流をしようと考え、12月には2回目の現地ボランティアを企画し実行しました。

その間、市大大学院の支援グループの協力により、5月の実績が評価され2012年度まで大阪・気仙沼間のバス代などの補助金が出ることになるなど幸運にも恵まれました。　11月11日に来校された国連の川端清隆氏は「一瞬で全てを失う津波被害は戦災と同じ。これを体験また目撃した生徒は世界の紛争がどんなものか肌で想像できるはず。そういう生徒さん達をニューヨークに連れて来てください。国連で待っています」と言ってくれました。近い将来、つばさ高校と気仙沼高校の生徒でNYの川端氏を訪ねることができれば、と思います。(文責：藤井伸二)

宮城県 村井善浩知事、避難されていた女性からの御礼状と大阪府「こころの再生」府民運動の表彰状

4

拝啓　春暖の候、時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびの東日本大震災に際しましては、多大なる御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。心温まる御支援により被災された方々はもちろん、災害対応に当たる関係者も大きく勇気づけられ、励ましになりました。

本県を襲った大地震と大津波は、一瞬にして多くの尊い生命を奪い、住み慣れた町を根こそぎ破壊しました。

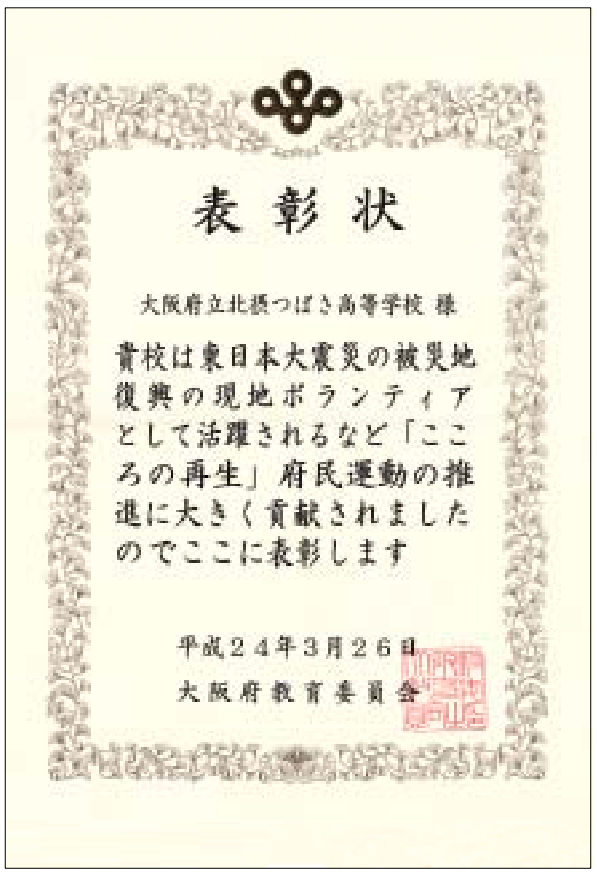
県といたしましては、悲しみ、苦難を乗り越え、県民と手と手を携えて、ふるさと宮城の再生ときらなる発展に向けて全力を挙げて取り組んでいく所存でございますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

このたびお寄せいただきました御厚情に対し略儀ながら書中をもって御礼を申し上げますとともに、皆様の御発展と御健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成二十四年三月

宮城県知事　村井　嘉浩



表彰状

大阪府立北摂つばさ高等学校 様

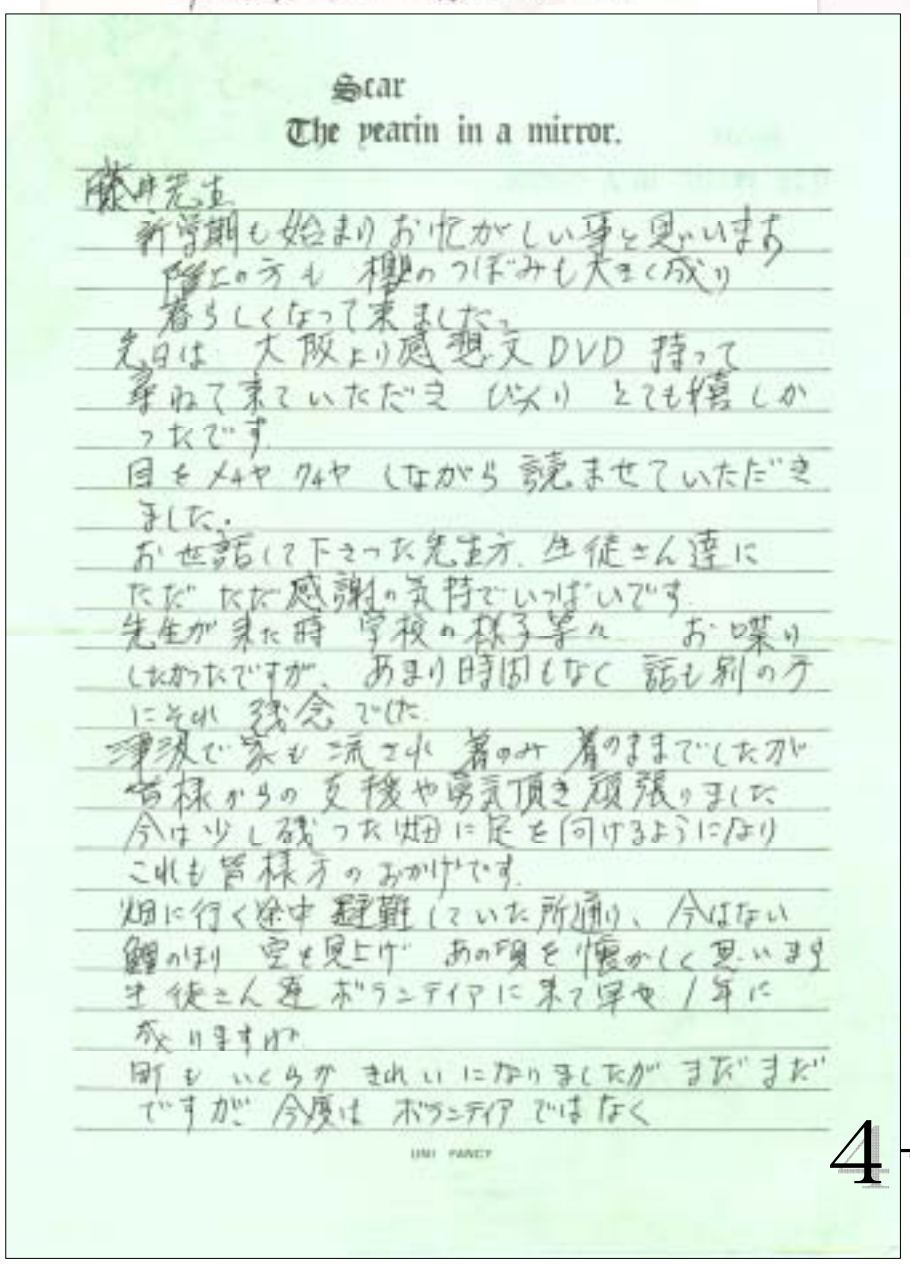
貴校は東日本大震災の被災地復興の現地ボランティアとして活躍されるなど「こころの再生」府民運動の推進に大きく貢献されましたのでここに表彰します

平成２４年３月２６日

大阪府教育委員会

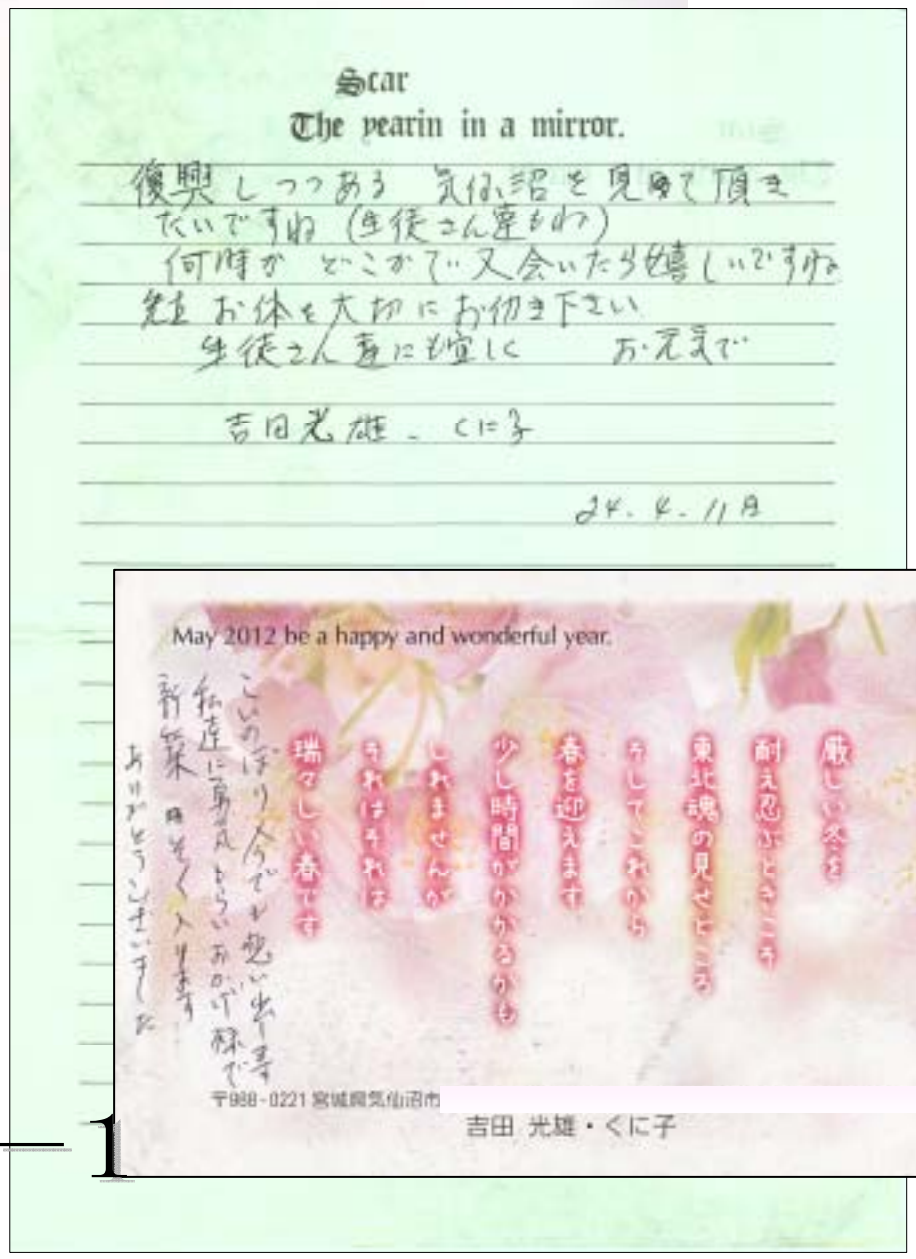
津波4階の上まで上った
向洋高校です

テレビに写った 岩井崎の 龍の形した 松です
津波かぶり 枝ヒカリ 落ちはかれたです



Scar
The pearin in a mirror.

藤井先生
新学期も始まりお忙がしい事と思います
庭上の方も 櫻のつぼみも大きく成り
暖らしくなって来ました。
先日は 大阪より感想文DVD持って
来ねて来ていただき ひとり とても嬉しかったです
目をメメヤ クメヤ しながら読ませていただきました。
お世話して下さった先生方、生徒さん達に
ただただ感謝の気持でいっぱいです
先生が来た時 学校の様子等々 お喋りしたかったですが、あまり時間もなく 話も別の方にそれ 残念でした
津波で家も流され 着のみ着のままでしたが
皆様からの支援や勇気頂き頑張りました
今は少し残った畑に足を向けるようになり
これも皆様方のおかげです
畑に行く途中 避難していた所通り、今はない
鯉のぼり 空を見上げ あの頃を懐かしく思います
生徒さん達 ボランティアに来て早や1年に
成りますね
町もいくらかきれいになりましたが まだまだ
ですが 今度は ボランティアではなく



Scar
The pearin in a mirror.

復興しつつある 気仙沼を見届て頂きたいですね（生徒さん達もね）
何時かどこかで又会いたい嬉しいですね
先生 お体を大切にお働き下さい
生徒さん達にも宜しく お元気で

吉田光雄、くに子

24.4.11日

4－1

気仙沼現地ボランティア（第３回）（20120502-06）

連休の気仙沼ボランティアにつばさの生徒 20 人超が参加　募金は 3 日で 150 名超が参加　5 月 2 日 19：00 つばさ高校を出発

被災地の復興はまだまだ進んでいませんが、西日本では被災地のニュースは日に日に少なくなっています。これからのボランティアは被災地に行って被災体験を聞き取り、周りに伝える「語り部」の役割が大事になってくると考えられます。また、旅行として東北に行くことで観光による復興も大事になってくると思われます。がんばろう！つばさネットワークでは大阪市立大学大学院の共生社会 東日本震災被災者救援･支援の会(理事長 柏木宏 教授)と協力して気仙沼ボランティアに行きます。現地では 4 つの高校の生徒に集まってもらっての交流や、被災体験の聞き取り、お出かけマップ作り、カキ養殖の復興支援などを予定しています。
これに合わせて 4 月 24、27 日、5 月 2 日に阪急茨木市駅前で募金を実施します。2.3 年生を中心にのべ 150 名超が参加します。

趣旨･目的　20110311 に発生した東日本大震災から 1 年が過ぎ、西日本では震災関連の報道が少なくなってきています。しかし、被災地では家族を失った被災者の心の傷は癒えず、家や財産を失った生活の再建はままならない状態です。瓦礫が山のように集められ更地となった被災地の復興は程遠い実態です。ボランティアは昨年(5 月 12 月)のようにヘドロの除去のような作業が中心ではなく、被災地の現実に学び、被災者の声を聞き取り、大阪に伝える「語り部」の役割が求められています。したがって、5 月にボランティアに行くとともに、８月に予定されている震災ユースフォーラム大阪、さらに希望者はニューヨーク研修で被災地の現状や被災者の思いを伝えるということが目的なのだと認識いただければ幸いです。

行程

事前の活動		活動内容
４月 24 日(火)	午後	１７：００　茨木市駅前募金（義援金 48,003 円 、行動カンパ 29,298 円）
４月 27 日(金)	午後	１７：００　茨木市駅前募金（義援金 41,958 円、行動カンパ 34,003 円）

２０１２年5月2～6日		活動内容
5 月 2 日(水)	午後	１７：００　茨木市駅前募金（義援金 31,743 円、行動カンパ 13,743 円）
	夜	１９：００　北摂つばさ高校から出発
5 月 3 日(木)	午前	南三陸町経由　気仙沼鹿折地区　復幸マルシェ(鹿折復興市場商店会)
	午後	１２：００　昼食　コミュニティルーム「あんばさん」にて塩田賢一会長から聞き取り　陸前高田の元市街地、高田高校をバスから視察
	夜	１７：３０　八瀬の森の学校　ホスト家族宅へ
5 月 4 日(金)	午前	９：００　八瀬の森の学校　出発　１０：３０　高校生交流(気仙沼高、気仙沼西高、志津川高校、本吉響高校)　義援金 13 万円を気仙沼高校へ
	午後	１４：００　田谷地区　地域調査　　１６：２０　エースポートからフェリー乗船、大島へ　　国民休暇村へ
	夜	１９：００　夕食
5 月 5 日(土)	午前	８：００　参加者を分けて復興支援作業　カキ養殖イカダのアンカー用土嚢に砂利つめ(30 人)と高台移転用地の伐採･整地(15 人)　　昼食
	午後	１６：００　終了し移動。　フェリーでエースポートへ。　お魚市場で買い物。
	夜	１８：００　お魚市場から出発。
5 月 6 日(日)	午前	８：００　北摂つばさ高校　到着　解散

参加者

高校生	大学生	社会人　未成年	教員	社会人　成年	参加者	主催者・事務局
4校２７人	3校3人	2名	3名	7名	４２名	3名

陸前高田高校の校舎(左)と体育館(右)　20120304　藤井が撮影

陸前高田市の元市街地　土台ごと波に持って行かれ更地のようになっている　　同左

2012 年 4 月 24､27 日と 5 月 2 日の 3 回の募金活動に延べ約 200 名の高校生が募金活動に参加しました。

気仙沼現地ボランティア（第３回）（20120502-06）

５月３日（木）この日の宮城県地方は大雨、暴風、洪水、波浪の４つの警報が発令される数十年ぶりの荒天でしたが、当初予定が室内活動中心だったことが幸いしました。
宿泊は八瀬の森の学校を中心にした民家宿泊で、山の上の方であったことも幸いしました。

老人ホーム　春圃苑　への訪問

第１８共徳丸　気仙沼市鹿折地区

復幸マルシェの塩田賢一会長からの聞き取り

５月４日（金）　この日の天気は朝から小雨で午後２時には雨も上がり、外での活動も予定通り展開することができました。

気仙沼高校での高校生交流　(気仙沼、気仙沼西、志津川、本吉響、北摂つばさ、柴島、山田、松原の８校の高校生８６名が交流)

午後の交流のあとは、班ごとに分かれて、おでかけマップづくり

気仙沼エースポートからフェリーで大島に渡ったところです。

気仙沼現地ボランティア（第３回）（20120502-06）

５月５日(土)この日は曇り空で、外でのパワープレイには最高の天気でした。土のうに砂利を詰める３０人班、高地移転のための森林伐採、運搬の１５人班で行動しました。

１２トンの砂利を６０キロずつ２００枚の土のうに詰めていく。

高台移転の用地を作るために、木を伐採して、谷底に落としていく。

カキとホタテの養殖イカダ体験

土のうはイカダのアンカー(いかり)となる

作業を終えて。後ろの海にイカダが浮かぶことを願う

20120503
八瀬の森の民家宿泊での団らん

20120504
松野代表から気仙沼高校に義援金１３万円を手交

20120504
気仙沼高校ダンス部が踊りを披露してくれました

気仙沼高校 庄子英利校長、佐藤忠司先生、生徒会執行部と松野雅一団長、

気仙沼ボランティアを終えて

震災から１年が過ぎ、現地ボランティアを巡る内外の状況は変わってきている。

外の状況としては、①震災直後のボランティアで行った公園のドロ掻きのような行政施策を補うような活動は、幸い無くなってきている。が、復興計画もままならず、土台だけとなった市街地に見られるように被災地の再生はまだまだ先に思われる。先進的な個人やグループの復興への営みへの支援の重要性は高まっていくだろう。②被災地についての報道が減り、震災についての意識の風化が課題と思われる。特に遠く離れた西日本では課題が大きい。聞き取りや高校生交流は更に重要性をもってくるだろう。

内の状況としては、①北摂つばさ高校の中に活動が定着してきている。生徒リーダーは 3 期生豊田龍之介君から 4 期生丸子健太郎君に交代した。事前の募金はのべ２００名の生徒が参加してくれた。現地行きにも 1 年生 8 名、2 年生 8 名、3 年生 7 名が参加してくれた。入試の後の合格者説明会や入学式の後の保護者への連絡の時間を活用して新入生に意識喚起するとともに、2011 年度は保護者への毎月の通知でつばさネットワークの記事を入れるなどの継続的努力が奏功している。②大阪府内への浸透も可能性が出てきている。前回に続いて柴島、さらに松原、山田高校の参加者が夏の大阪での交流の各校での核になってくれればと期待したい。③茨木市民における活動への認知が進展している。募金をしていて好意的な反応が多かった。特に 2011 年 12 月は関心が後退したように思えたが、2012 年 5 月の反応は好意的であった。3 月に震災 1 年を機にした報道が増え、被災地の復興支援への共感が高まっていたのではないかと考えている。(藤井)

気仙沼高校から生徒４０名、教員４名を大阪に招待（20120810-12）

気仙沼の高校生の大阪招待に関わるホスト家族について(募集)

1　趣旨　がんばろう！つばさネットワークは平成 23 年 5 月 2-5 日に北摂つばさ高校生 29 名など 48 名で、12 月 22-26 日に高校 4 校 16 名など 30 名で気仙沼市の被災地ボランティアを実施しました。その間、8 月に玉島地区、水尾地区の自治会などの協力を得て心身を癒していただこうと気仙沼高校生徒 11 名、教員 2 名を大阪に招待しました。平成 24 年度は 5 月 2-6 日の日程で高校 4 校 27 名など 44 名で現地ボランティアで聞き取り、気仙沼 4 高校の生徒と交流を行いました。昨年、**大阪に来ていただいたことが気仙沼の高校生の元気につながっている、と嬉しい声をいただいています。気仙沼高校生徒から、是非、大阪で自分たちも募金して気仙沼の役所に届けたい、という声もいただいています。**つきましては、被災地と大阪の高校生が交流し、被災地の復興に少しでも協力できるように、以下の日程で大阪に招待します。ホスト家族を募集いたしますので、応募いただければ幸いです。

2　募集内容　ホスト家族

主催　がんばろう！つばさネットワーク　(北摂つばさ高校のホームページから検索できます)

共催　大阪市大学大学院共生社会被災者支援の会(代表 柏木宏教授)　大阪府立北摂つばさ高等学校(校長 山崎睦也)

後援　大阪府「新しい公共の場づくりのためのモデル事業<震災対応>」　大阪府教育委員会
ＡＳＰｎｅｔ ＯＳＡＫＡ (ユネスコスクール大阪)

協力　宮城県気仙沼高校、気仙沼西高校、気仙沼向洋高校、志津川高校、本吉響高校
茨木市玉島地区連合自治会、茨木市水尾地区連合自治会、茨木市葦原地区自主防災会
茨木ローズ ライオンズ クラブ、天然温泉 鳥飼の里、キンキ寝具株式会社

受け入れゲスト　気仙沼地区 5 高校生 20 名程度 教員 5 名程度、
気仙沼高校ダンス部 29 名 教員 1-2 名
(ダンス部は全国大会で 8/8-10 まで神戸滞在。ホスト家族が不足の場合は集会所等で対応の予定)

内容　8 月 10 日(金)19 時～12 日(日)7 時 30 分、ゲスト生徒を受け入れ、夕食、風呂、寝床、朝食を提供願います。

送迎　**北摂つばさ高校が集合拠点です。茨木市南部のホスト家族と北摂つばさ高校の間の送迎は**
北摂つばさ高校の生徒が担当しますので、ホスト家族は自宅でお待ちいただければ結構です。

日程　平成２４年８月１０－１２日

	８／９(木)	８／１０(金)	８／１１(土)	８／１２(日)	８／１３(月)
朝		大阪到着	起床･朝食 7:30 ﾎｰﾑｽﾃｲ出発	起床･朝食 7:30 ﾎｰﾑｽﾃｲ出発	気仙沼到着
昼		大阪縦断募金 キャラバン	PM1-5　震災復興ﾕｰｽ･ｻﾐｯﾄ　福祉文化会館５Ｆ	宝塚で観劇 大阪出発	
宿泊	気仙沼出発	19:00 ﾎｰﾑｽﾃｲ帰宅 夕食･風呂･寝床	19:00 ﾎｰﾑｽﾃｲ帰宅 夕食･風呂･寝床		

3　**申し込み先**　がんばろう！つばさネットワーク事務局　第一次〆切り 平成 24 年 6 月 15 日(日)
藤井伸二(北摂つばさ高校教員)　090-3271-4292　FAX072-633-0526（北摂つばさ高校）
申込用紙は　FAX で　北摂つばさ高校　に直接、お送り下さい。

4　**ホスト家族説明会**　2012 年 6 月 25 日(月)午後６：３０～　北摂つばさ高校 2 階　会議室
ホスト家族反省会　2012 年 8 月 25 日(土)午後６：３０～　北摂つばさ高校 2 階　会議室

気仙沼高校ダンス部が全国大会(神戸)に出場！

これにあわせて大阪で宮城・岩手県境地域の高校生を大阪に招待

気仙沼高校ダンス部も大会終了後、大阪で合流し震災復興ユースサミットに出演。

神津カンナさん(5 人目)のコーディネイトによる震災復興ユースサミット(20120811)

茨木ﾛｰｽﾞ ﾗｲｵﾝｽﾞ ｸﾗﾌﾞ の古川泰稔会長から支援金 34 万円が寄付される 20120811

震災の悲しみを乗り越え復興への祈りを捧げるために部員全員で創作したオリジナル曲「輪廻(りんね)」を踊る気仙沼高校ダンス部(20120811 茨木市福祉文化会館)

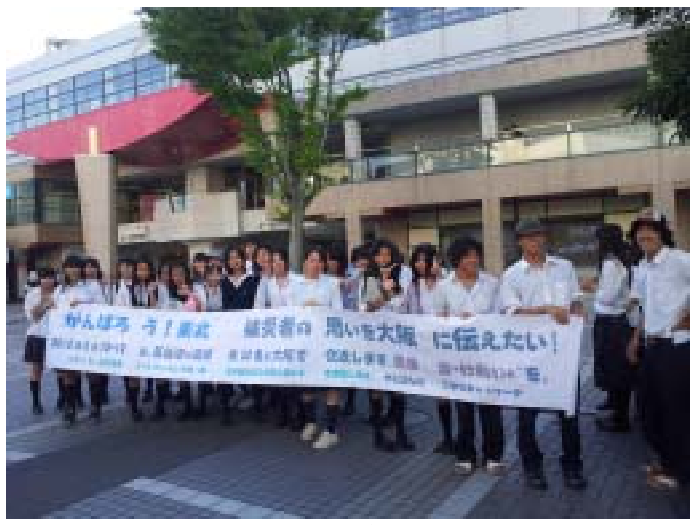
鳥飼の里で長旅の疲れを落とす 20120810

大阪･宮城の高校生で募金活動 20120810

北摂つばさ高校ダンス部も出演 20120811

最終日は宝塚でレビューを観劇 20120812

気仙沼高校から生徒４０名、教員４名を大阪に招待（20120810-12）



茨木市駅前募金　20120719

茨木ﾛｰｽﾞ ﾗｲｵﾝｽﾞ ｸﾗﾌﾞ 古川泰稔会長(前)と北摂つばさ高校のボランティア 20120728 茨木ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ

北摂つばさ高校ＰＴＡ高松順一会長とボランティア・メンバー　20120728 茨木ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ

茨木ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ 20120728↑　水尾祭り 0803↓

気仙沼・志津川・北摂つばさ三校の交流会　20120810 北摂つばさ高校

準備・打ち合わせ会議 20120806

送迎担当の生徒が集合 20120810

ビザ交流　20120811 北摂つばさ高校にて

ビザ交流　20120811 北摂つばさ高校にて

気仙沼高校から生徒４０名、教員４名を大阪に招待（20120810-12）

志津川高校の生徒と「いくよ」さん、「くるよ」さん　20120810 なんばグランド花月

震災復興支援ユースフォーラム　20120811 茨木市立福祉文化会館

志津川高校、気仙沼高校の生徒会メンバー　20120810 道頓堀の相合橋にて

創部以来、クラブで継承している「和」のテイストあふれるダンスを踊る気仙沼高校ダンス部のメンバー　20120811　茨木市立福祉文化会館

ﾕｰｽﾌｫｰﾗﾑでの出演を終えてﾀﾞﾝｽ部の夕食　20120811 飛鳥西住宅集会所

朝の集合の後の「さよなら」　20120812 北摂つばさ高校

田谷公園へドロ除去作業を終えて20110504

北摂つばさ高校の生徒が5月に公園のヘドロ除去作業をしたので、気仙沼で最初に建設された田谷公園の仮設住宅壁面 20111225

気仙沼復興商店街オープニング
気仙沼高校ダンス部のステージ
2011, 12, 25

鹿折地区の視察　20120504